

拝啓 今年も早や8月下旬となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、今の時期は、百日紅が、赤い花、白い花を真夏の青空に向かって咲いています。

今回は、小西芳之助先生の『わが主イエスよ—恵心流キリスト教・説教集—』の9回目で、「第9講 死に勝つ生涯（その2）」と「第10講 私の信仰」よりの紹介ですが、13ページ、「目の前の義務を尽くす」という項には、次のように書かれています。

「目の前の義務を尽くすことにつきましては、これはロマ書12章1節、2節。この愛のこと。愛というのは神の意思をなすことです。神の意思をなすとはどうすることかということ、われわれ現在にあてはめてみたら、自分のなしたいことをなすのではなくして、なすべきことをなす。これが神の意思をなすことになる。これはロマ書を研究したらわかる」とあります。これは何十回、何百回も聞いた言葉であります。目の前の義務をなすことが、キリスト教で言う信・望・愛の愛になるというのは、小西先生の卓見だと思います。そこまで言い切った先生はおられないように思います。また、上記の文章中、「自分のなしたいことをなすのではなくして」という、一句を心に刻んで、なすべき仕事の優先順位を間違わないようにしたいと思います。

私には、建設省時代の先輩で福本英三さんという友人がいます。この方と毎月近所の公園を散歩するのですが、福本さんは、映画にも非常に詳しい知識を持っておられる方で、見るべき映画は何か、など色々教えて頂いております。何のきっかけからか、山田洋次監督の映画が良いと言われ、その中でも、「幸福の黄色いハンカチ」と「遥かな山の呼び声」を勧められまして、その二本をまずDVDを借りてみました。確かに、高倉健と倍賞千恵子の演技、ストーリー展開の牽引力、結末の意外さから来る感動等に捕われまして、この2本を見て、すっかり山田洋次ファンになってしまいました。幸いツタヤというDVDを貸し出す店が近所にあるものですから、それからは一本見終わるごとにツタヤに行って、山田洋次監督の映画を借りて次々と見ております。「学校」のシリーズ(4本)も見ました。昔、岩波少年文庫の売れ行き上位30作品というリストを見て、その順番にドリトル先生、大草原の小さな家のシリーズなどを読んで、大変感銘を受けたことがありました。今回は、山田洋二監督の映画を次々に見るという新しい趣味を発見して、楽しんでいます。この年にして、お金が安くて、パレルゴンになる良い趣味を発見したと思っています。

小西先生の説教集「ピリピ書・コロサイ書」が、校正が終り、9月1日発行の予定で準備を進めています。小西先生のパウロ書簡講解説教集は、本として出ていないのは、テサロニケ前後書、テモテ・テトス書になりますが、できれば全部完成させたいという念願を持っています。

暑い夏も、ようやく終わりに近づいたように思いますが、みなさまもどうぞお元気でお過ごしください。

2019年8月22日

山口周三

エンカウンターの読者各位